



今年度は認知症を予防するために「認知症についての知識」、「認知症の治療とケア」、「認知症の予防」について、順を追って掲載しています。



今月は、家族など身近な人が認知症になった場合の接し方について紹介します。

認知症が疑われるサインに気づいたら専門医（内科、神経内科、精神科）へ相談してください。

認知症の治療とケア

認知症の人との 関わり方のポイント

●「否定よりも肯定」の気持ちで接しましょう

介護者は認知症の人の思わぬ言動に戸惑うことがあります。そのなかで、誤りや失敗などがあったときに、強い口調で否定や叱責をしたり、理屈に任せた説得を試みたりすると、認知症の人の罪悪感や孤独感をつのらせることが多いようです。

まずは、誤りや失敗に対して「大丈夫」と肯定する気持ちを示しましょう。認知症の人にも、受け入れられることで罪悪感や孤独感は和らぎ、失敗にめげず「自分のことはできるだけ自分でしたい」、「何か役割をもちたい」、「周囲の仲間に入りたい」といった意欲を再び奮い立たせることができます。

認知症の人が失敗を怖れずに暮らせる環境づくりが大切です。介護者もひとりであれば負担が増えます。周囲の人たちと協力して複数の人で支えましょう。

介護者が重視したい
「認知症の人の気持ち」

頭ごなしに否定するばかりではなく、自分の言動を受け入れ、理解してほしい。

「認知症サポーター養成講座」を受けて、認知症患者が住みなれた地域で生活できるように、認知症の方やその家族を見守る「認知症サポーター」になりませんか？
ご希望の方は、福祉課へご連絡ください。

おたっしや本舗

今月の福祉

多久市地域包括支援センター
(多久市役所 福祉課内)

☎ 75-6033

多久市地域包括支援センター（おたっしや本舗多久）は高齢者のみなさんが、いつまでも元気で安心して暮らせるように、あらゆる面から応援する総合相談機関です。

認知症ストップ作戦

No.11

その人の自尊心や個性を尊重する

1



言葉になりづらい気持ちを推量する

2



間違いや失敗を「大丈夫だ」と受け入れる

3



何か役割を果たせるように支援する

4



言葉だけでなく笑顔やスキンシップも心がける

5



ひとりではなく、複数の人と支える

6

